

第2期神崎町 まち・ひと・しごと創生 総合戦略

素案

人口減少が全国的に大きな問題になる中、神崎町が永続的に存続していくためには、住民をはじめ多くの関係者がこの問題を真剣に捉え、どうしていくべきかを話し合い、行動に移していく必要があります。総合戦略は、こうした問題意識を共有し、子どもや孫たちの笑顔を思い浮かべながらワクワクするまちづくりを行っていくための取組を総合的にまとめたものです。随時戦略をアップデートしながら、「考え、行動する」神崎町を作り上げていきましょう。

目 次

策定の背景	1
(1) 「神崎町人口ビジョン」の位置づけと計画期間.....	1
第1章 神崎町の人口問題の所在.....	2
(1) 人口推移と将来予測から見える問題.....	2
第2章 将来人口推計	6
(1) 将来人口推計	6
第3章 人口の将来展望.....	8
(1) 人口の将来展望.....	8
第4章 第1期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価	9
(1) 第1期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価	9
(2) 第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ.....	11
(3) 第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間.....	12
(4) まち・ひと・しごと創生政策展開の5原則	12
(5) 目標設定とPDCAサイクルの確立.....	12
第5章 戦略コンセプト	13
第6章 基本目標	14
第7章 施策・事業の展開	15
基本目標1 「おもしろそう」だから人が集う.....	15
基本目標2 パートナーと「おもしろそう」な人生が送れる	17
基本目標3 「おもしろそう」な仕事がある.....	20
基本目標4 「おもしろそう」なまちづくりがある.....	22

策定の背景

わが国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的として、まち・ひと・しごと創生法が2014年11月に制定されました。

また、その目的を達成するため、国は、人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、同年12月に閣議決定しました。

その後、2019年6月に「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を閣議決定し、継続的で効果的な人口減少対策を講じていくことを支援していくこととしています。

まち・ひと・しごと創生基本方針2019(4つの基本目標と地方創生版・三本の矢)

<4つの基本目標>

- ◆従来の枠組を維持しつつ、必要な強化
 - ・「地方への新しいひとの流れをつくる」の取組の強化
 - ・「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、子ども・子育て本部等と連携
- ◆「人材を育て活かす」「誰もが活躍する地域社会をつくる」観点を追加
- ◆新たな視点に重点をおいて施策を推進
 - ・新しい時代の流れを力にする(Society5.0等)、人材を育て活かす等

<地方創生版・三本の矢>

- ◆従来の枠組を維持
- ◆地方創生関係交付金については、必要な見直しを実施

まち・ひと・しごと創生法第10条において、市町村は、区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画を定めるよう努めることが求められています。

本町においても、将来に向けた人口減少対策を重要な課題としてとらえ、「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策を推進していくこととします。

「神崎町人口ビジョン」の位置づけと計画期間

「神崎町人口ビジョン」は、「神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画・立案する上で重要な基礎と位置づけられるもので、神崎町における人口の現状分析を行い、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

また、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案して「神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定めることを受け、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案して「神崎町人口ビジョン」を策定するものとします。

「神崎町人口ビジョン」の対象期間は、2060年までとします。

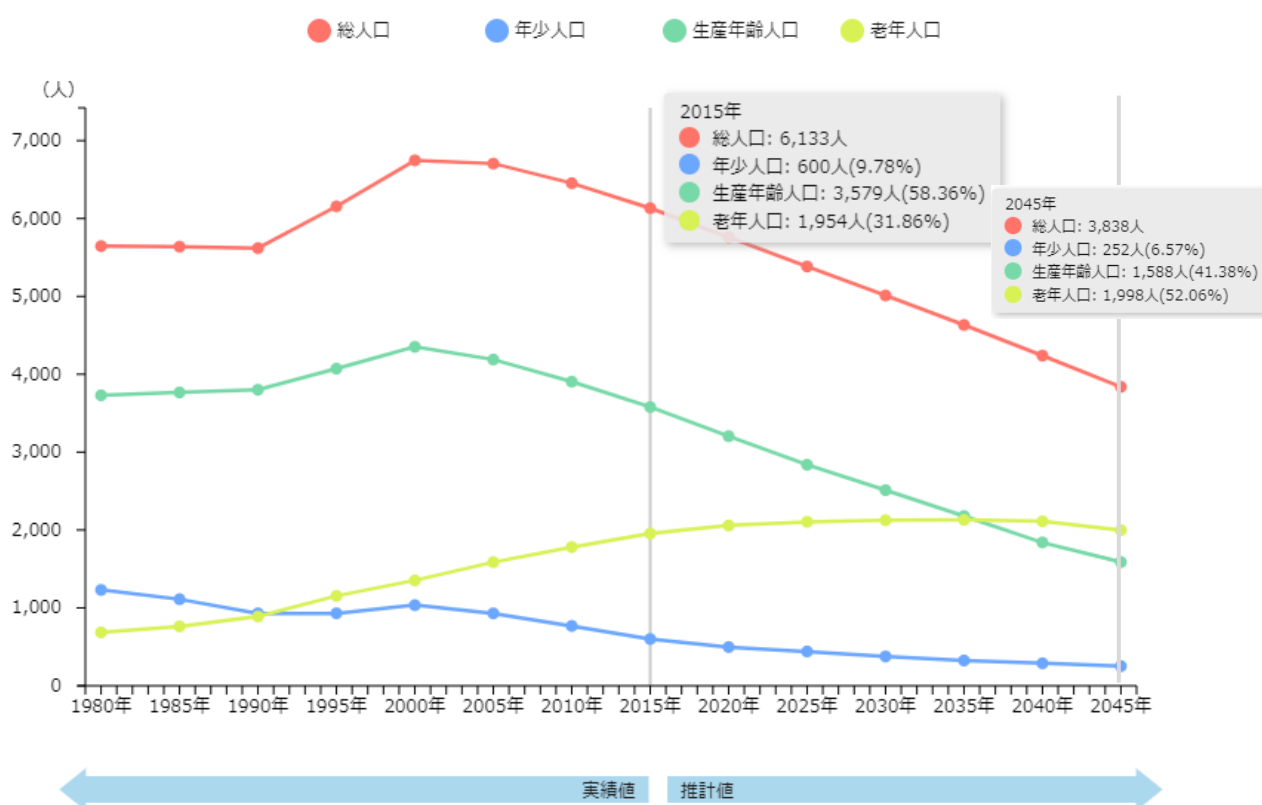
第 1 章 神崎町の人口問題の所在

人口推移と将来予測から見える問題

① 総人口の推移と予測

2015年の国勢調査結果を見ると、2010年比で総人口は321人減の6,133人となっています。総人口を示す赤の折れ線グラフは今後も減少傾向で推移していくことが予測され、今から約25年後の2045年には3,838人になることが予測されています。

折れ線グラフを見ると、赤色の総人口と緑色の生産年齢人口がほぼ比例して減少傾向で推移していき、黄緑色の老年人口がやや増加傾向で推移していくことが見込まれています。この推計では、2045年に高齢化率はついに50%を超えることが見込まれています。



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

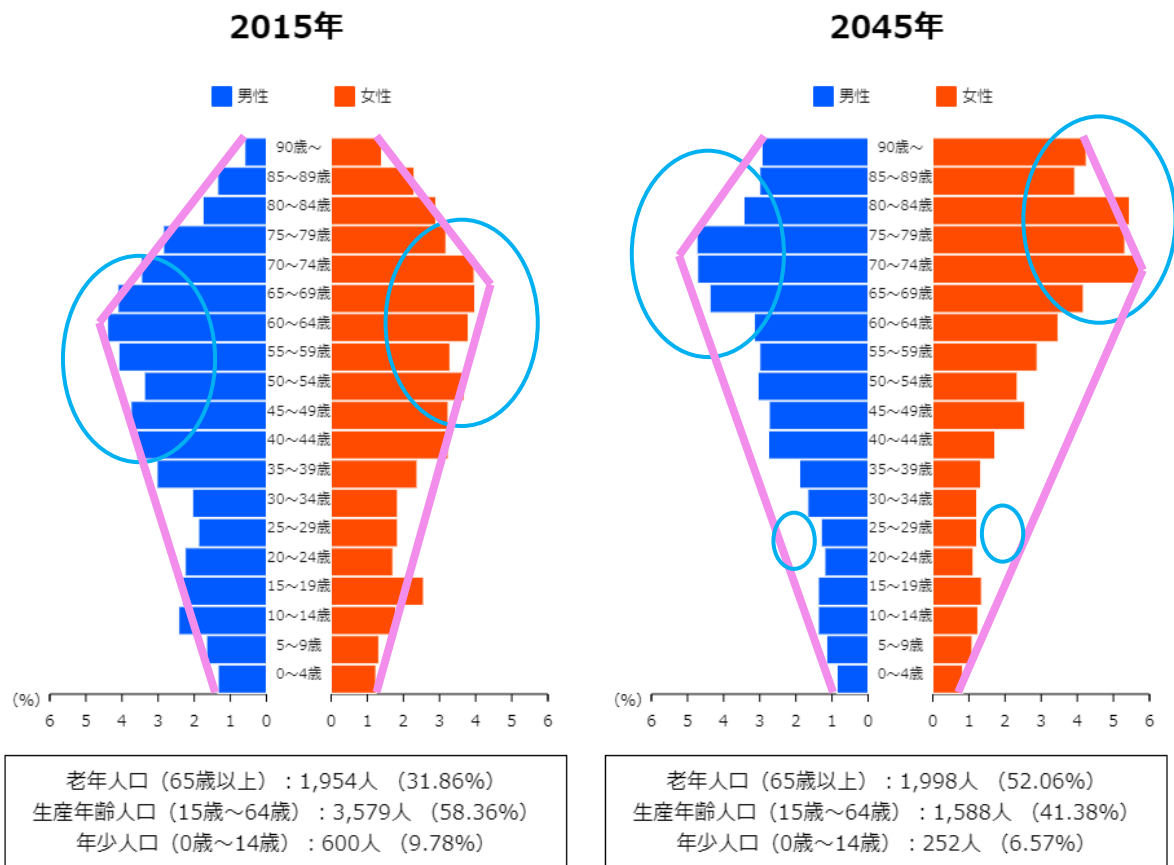
② 人口ピラミッドから見る課題

神崎町の最新の国勢調査結果と、最新の推計結果を人口ピラミッドで表したのが下図です。

30年間でどう推移するかを予測したのですが、男女ともに人口ボリュームゾーンは65歳以上の高齢者になっており、**ほぼ逆三角形の人口ピラミッドになることが予測されています**。また、子どもの数も激減することが予測され、**0～14歳の年少人口は半減以上になることが予測されています**。少子高齢化が30年間で大幅に進むことが見込まれます。これとともに、2045年の人口ピラミッドでは、20代が少なくなっており、子育て世代の極端な減少が見込まれています。

少子化が進むことにより幼稚園や保育園、学校施設の統廃合が進むことが予想され、生産年齢人口の減少に伴い空き家が目立つようになり、高齢者のひとり暮らしや夫婦のみの世帯が増加することにより自治機能の低下が懸念されます。

子どもの数を増やすことが神崎町の存続に欠かせない課題であり、そのためには、**特に子育て世帯の増加を強力に推進していくことが必要**です。



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

③ 人口増減の推移から見る課題

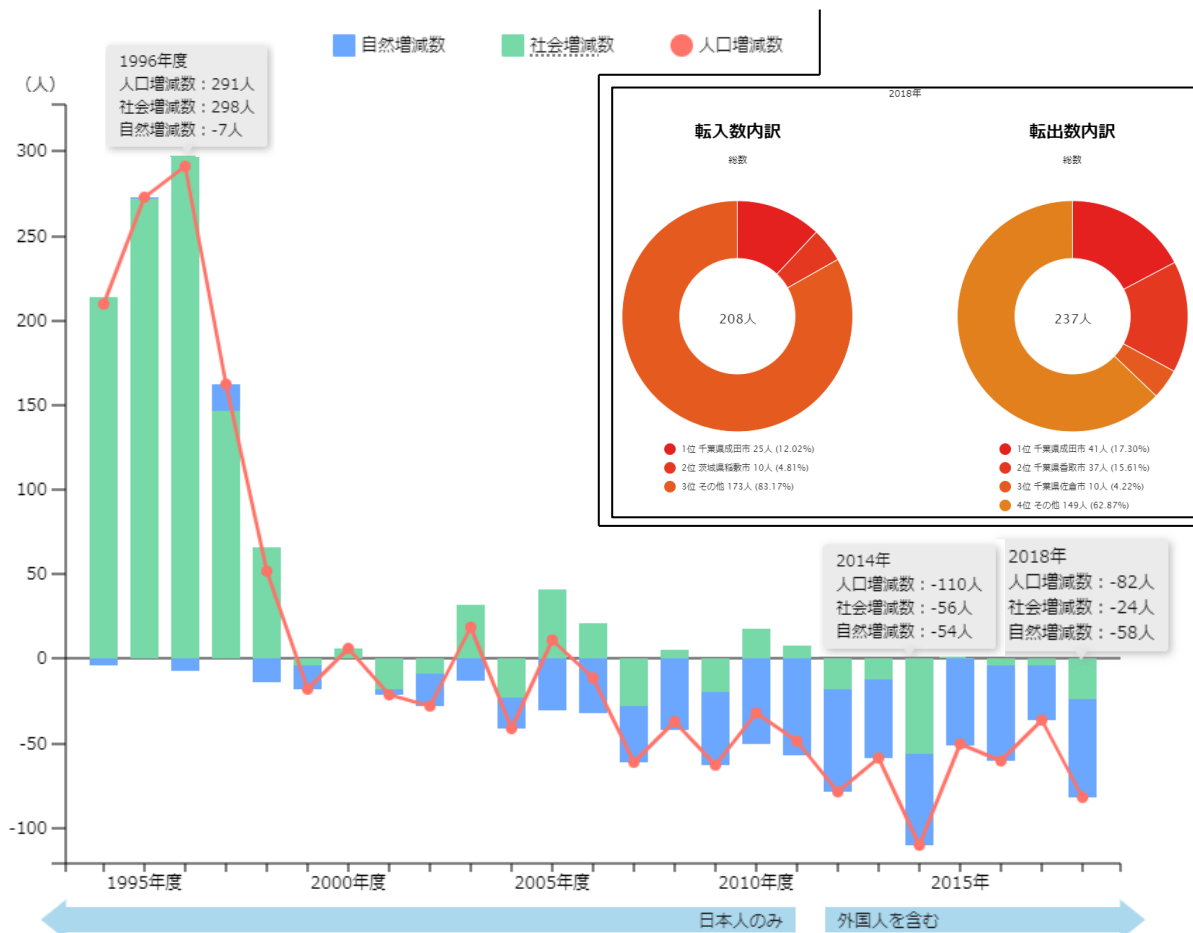
自然増減・社会増減の推移を見ると、本町の大きな課題が見えてきます。

1990年代の社会増は年間300人近くになった年もあり、グラフで表示されている1994～1998年度の5年間だけで社会増は1,000人を超えています。住宅団地の開発に伴う人口増加によって短期間に社会増が進行しましたが、その後増減を繰り返し、近年は社会減で推移しています。また、自然増減については2001年度から一貫してマイナス傾向で推移しています。

今後、新たな大規模住宅開発が見込まれない中で、1990年代のような大幅な社会増を見込むことは困難です。一方で、本町の合計特殊出生率は1.27で県内でも低く、生産年齢人口も減少していく中で自然増を見込むことも困難です。

2018年の転入数は218人、転出数は237人となっています。転入元・転出先の上位として成田市、稲敷市、香取市、佐倉市などとなり、近隣都市部との移動が多いことがわかります。

大規模な住宅開発が見込まれないのであれば、小規模だけど良質な移住を促進する住宅環境の整備や、空き家の活用などが重要であり、子どもを産みたい人が安心して出産できる環境整備がより一層重要になってきます。



【出典】

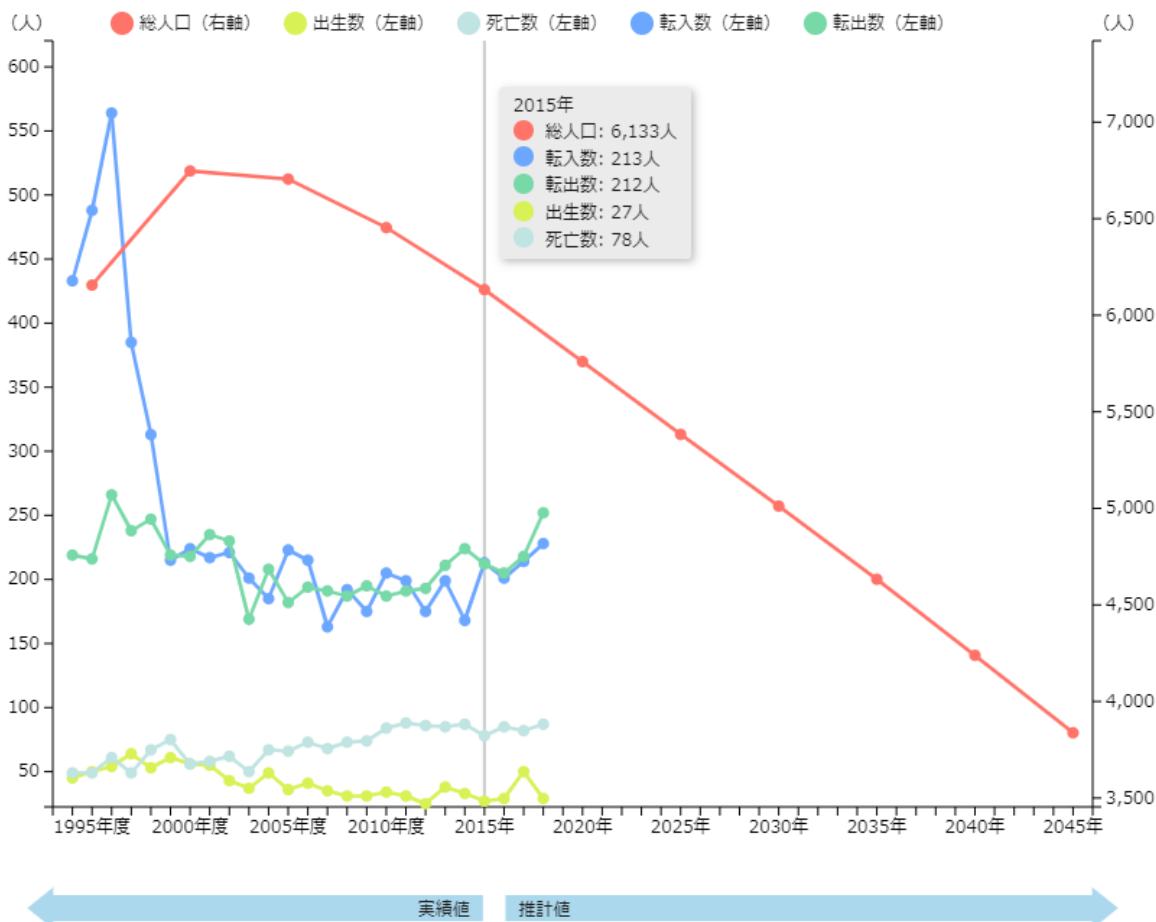
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
円グラフは、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【注記】

2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

④ 出生数・死亡数 / 転入数・転出数

人口動向として自然動態(出生数・死亡数)を見ると、2015年で出生数は27人に対して、死亡数は78人となっており、約50人の差があります。社会動態(転入数・転出数)では、2015年で転入数が213人に対し、転出数は212人で、ほぼ均衡しています。高齢化に伴い死亡数が増加することが見込まれる中、出生数をいかに増やしていくかが人口減少対策として非常に重要です。



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【注記】

2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数・転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

第2章 将来人口推計

将来人口推計

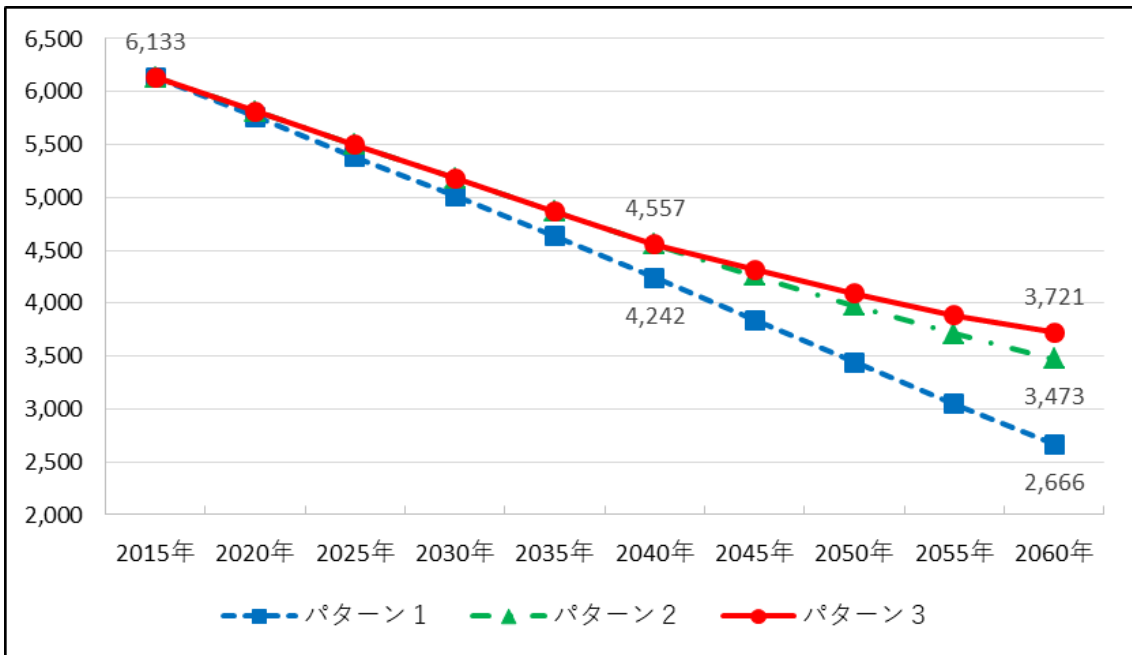
① 総人口の将来人口推計

将来人口の推計に当たって、下記のように3種類の推計を行いました。

社人研推計準拠のパターン1の推計では、2060年に総人口は2,666人と最も少なくなることが見込まれています。出生率と人口移動に条件を加えたパターン2では、2060年に総人口は3,473人となります。パターン2の推計条件に、さらに人口移動の条件を加えたパターン3では、2060年に総人口は3,721人となります。

推計パターン	仮定値の設定
パターン1 ※ 社人研推計準拠の推計。	出生、死亡、移動について、社人研の行った「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」に準拠した仮定値を設定。 ●出生の仮定 2015年の子ども女性比の傾向が継続。 ●移動の仮定 「2010年→2015年」の傾向が継続。
パターン2 ※ 現行の人口ビジョンの「参考(国の長期ビジョン勘案)」の仮定条件に基づく推計。	●出生の仮定 合計特殊出生率が、2020年に1.60、2030年に1.80(国民希望出生率)、2040年に2.07(人口置換水準)まで上昇し、その後2.07で推移(国の長期ビジョンと同様)。 ●移動の仮定 2040年までに転入と転出が均衡。
パターン3 ※ 現行の人口ビジョンの「神崎町人口の将来展望」の仮定条件に基づく推計。	●出生の仮定 パターン2と同様。 ●移動の仮定 2040年までに転入と転出が均衡し、それ以降0～49歳の人口が1年当たり10人の社会増で推移。

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
パターン1	6,133	5,760	5,383	5,011	4,632	4,242	3,840	3,438	3,044	2,666	2,317
パターン2	6,133	5,814	5,498	5,182	4,867	4,557	4,261	3,976	3,708	3,473	3,276
パターン3	6,133	5,814	5,498	5,182	4,867	4,557	4,316	4,091	3,887	3,721	3,598

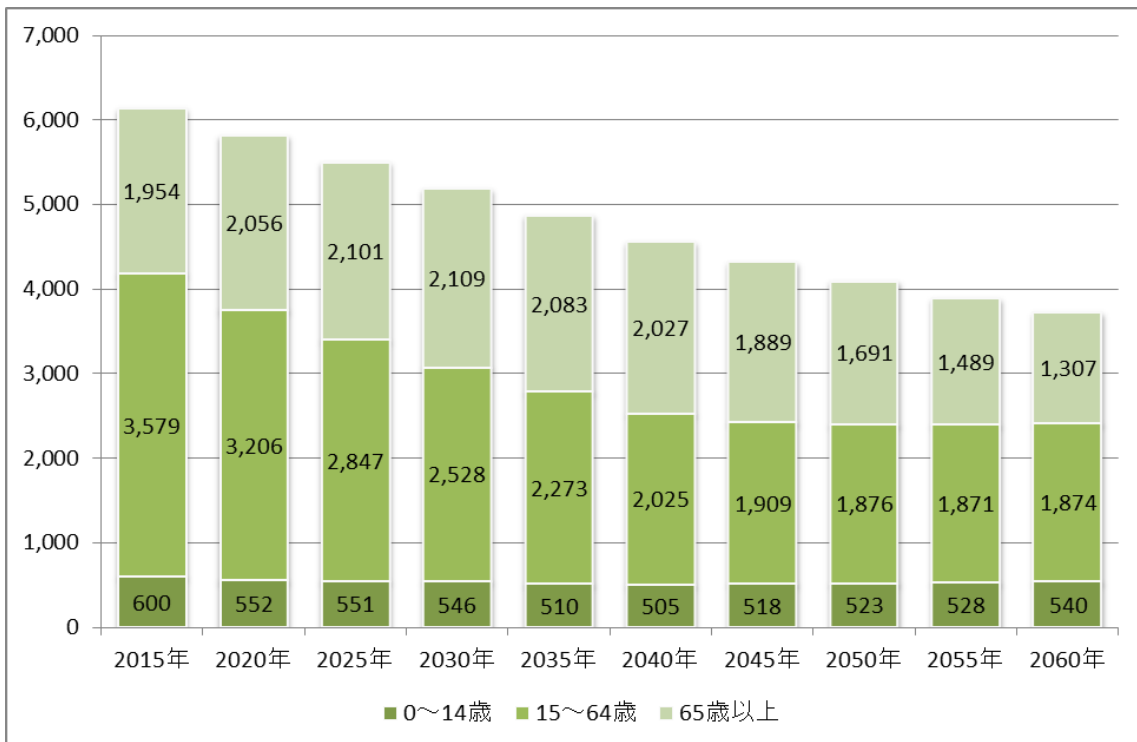


② パターン3の年齢3区分別人口の変化

3つの推計のうち、最も減少が少ないパターン3の年齢3区分別人口の変化をみると、以下のようなグラフになります。

65歳以上人口は2030年をピークに減少に転じ、年少人口は500～600人程度で維持される推計となっています。

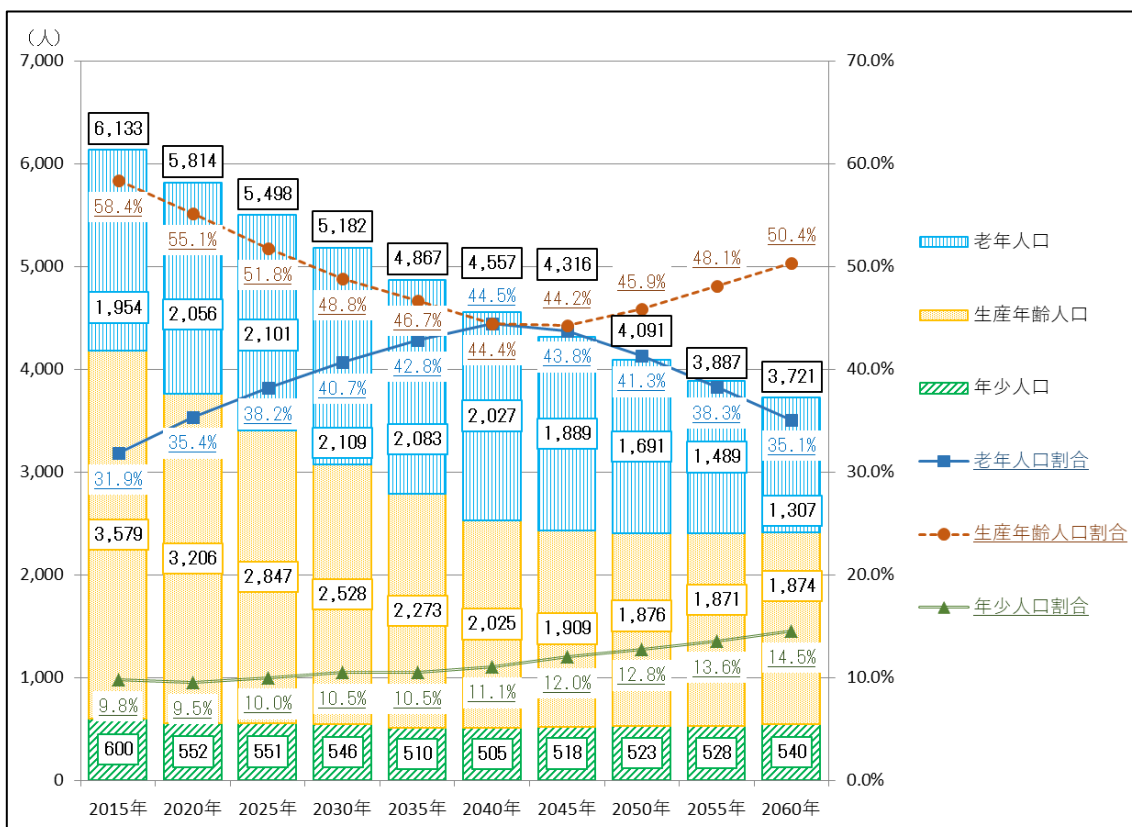
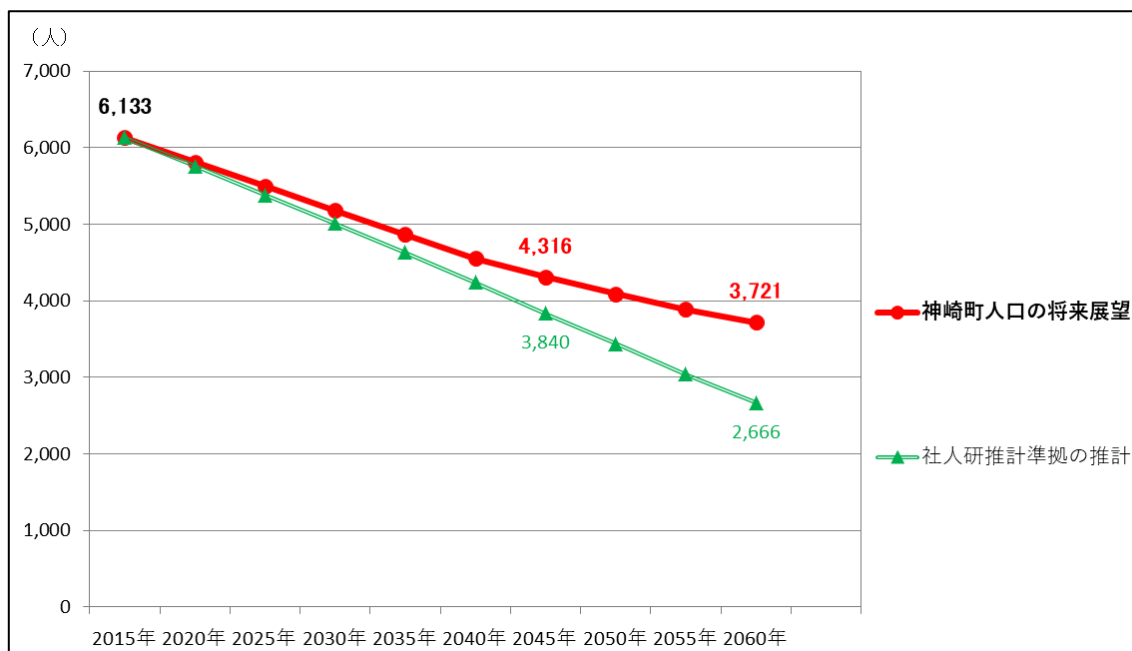
ただし、これは合計特殊出生率が向上していくことと、社会移動がプラスに転じることが前提となっています。



第3章 人口の将来展望

人口の将来展望

本町においては、人口減少対策に町一丸となって取り組むこととし、厳しい条件ではあるものの、パターン3を将来展望の推計として採用し、2060年に総人口3,721人を目指します。



第4章 第1期神崎町まち・ひと・しごと 創生総合戦略の評価

(1)第1期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価

第1期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価は以下の通りです。

設定した23の重要業績評価のうち、目標を達成したのは9項目にとどまっています。

目的を絞った事業を行い、掲げた指標を必ず達成できるように、指標のあり方も含めて第2期戦略では見直していく必要があります。

基本目標	施策	重要業績評価(KPI)				事業	課題
		指標名	目標	実績	評価		
1 人々が新たに集う“まち”を醸す	1 移住・定住の支援	町内移住者数(移住者支給数)	10人	26人	A	★空き家バンク・空き家改修助成事業 ★移住・定住者応援事業 ★生活環境衛生事業	空き家バンク事業については、空き家調査は実施済みだが、空き家バンク制度については令和元年度運用開始予定。
		空き家改修助成件数	10件	0件	C		
	2 観光の振興	年間観光入込客数	80万人	85万人	A		
		発酵の里特産品認定数	5点	0点	C		
	3 自治体連携の推進	自治体連携事業数	3事業	2事業	B	★自治体連携強化事業 ★利根川舟運連携事業	毎年4月に開催する河川敷まつりにおいて、サッパ船やプレジャーボートの乗船を通して舟運体験を実施。他自治体との連携は今後の課題。
	2 若い世代の夢かなう“未来”を醸す	1 出会い・結婚支援の充実	結婚祝い金交付件数	5件	0件	C	★婚活支援事業
婚活支援員数			10人	3人	B		
2 子育て支援の充実		子育て支援についての町民満足度	25.0%	33.0%	A	★子育て世帯応援事業	子育て支援策については、近隣市町に先駆けて各種優遇策を実施してきたが、経済的支援策は近隣市町も同様に行い、優位性が低くなっている。
		未満児保育入所者数	40人	37人	B		
3 未来をつくる教育・文化・スポーツの推進		全国学力・学習状況調査	全国平均以上	達成	A	★特徴ある教育環境充実事業 ★一人ひとりが輝く生涯学習・文化振興事業 ★日本体育大学との協定を活用したスポーツ振興事業 ★地域連携教育・青少年健全育成事業	ふれあいプラザ文化ホール(多目的ホールや視聴覚室)の稼働率は91%(会館日数における利用日数の割合)と高くなっているが、築20年近くなり、修繕費用が増えてきている。
		文化・スポーツ環境に関する住民満足度	30%	(ス)14.9% (文)25.3%	B		

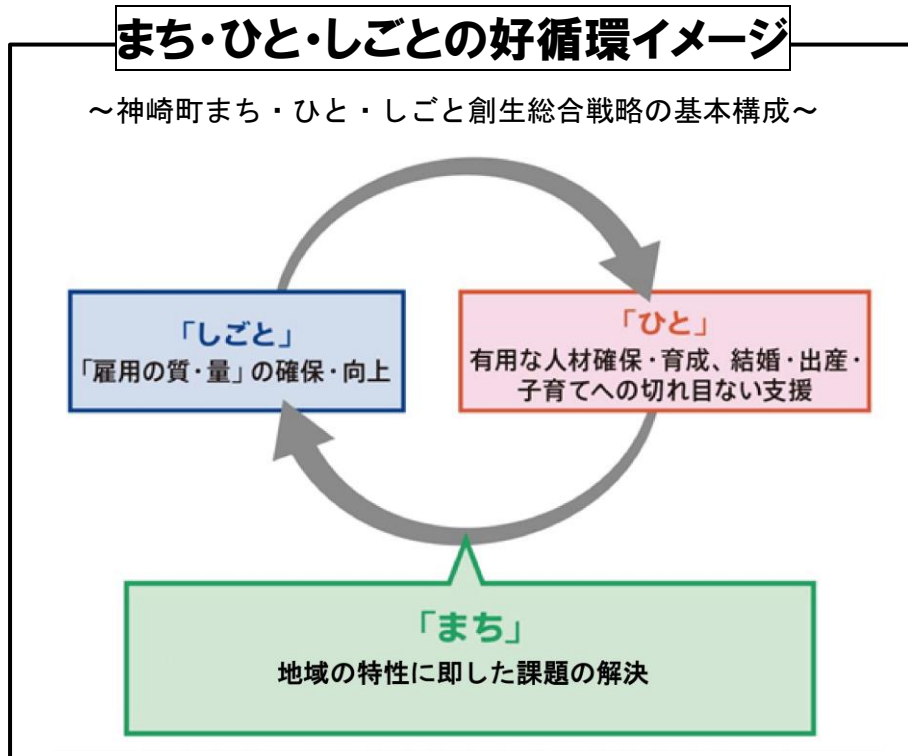
基本目標	施策	重要業績評価(KPI)				事業	課題
		指標名	目標	実績	評価		
	4 若者定住支援の充実	3世代2世代同居世帯数	20世帯	—	C	★若者定住支援の充実	同居・近居支援交付金事業及び若者定住住宅事業は未実施。
3 “しごと”を醸す	1 農業の振興	新規就農者数	5人	9人	A	★新規就農支援事業 ★担い手支援事業 ★発酵の里こうごき農産物ブランド推進事業	神崎産農産物を使った6次産業化によるさらなる商品開発が今後の課題。
		地域での農業環境保全活動事業利用地区	12地区	12地区	A		
	2 商工業の振興	特産品開発数	3件	3件	A		
		誘致企業数	3社	0社	C		
起業・創業・移転補助制度利用件数		3件	0件	C			
空き店舗バンク利用件数	3件	0件	C				
4 安全・安心に暮らす“未来”を醸す	1 小さな拠点づくりの推進	小さな拠点の形成数	1箇所	1箇所	A	★道の駅地域拠点機能強化事業 ★神崎IC周辺整備事業 ★防災拠点整備・機能強化(防災広場)事業 ★調和のとれた土地利用と規制の推進事業	道の駅に隣接するパーキングエリアの設置は、今後の最も重要な課題。
	2 防災体制の充実	木造住宅耐震診断・補助工事助成件数	5件	0件	C	★消防・防災体制強化事業 ★木造住宅耐震診断・補助工事助成事業 ★公共施設耐震化点検・修繕事業	木造住宅耐震診断・補強工事助成事業について、制度は作ったが利用者を増やすことが課題。
	3 道路・公共交通体系の充実	循環バス利用者の年間延人数	12,000人	9,574人	B	★道路・公共交通充実事業 ★循環バス運行事業 ★通学路整備事業	高齢者福祉対策として、土日運行等の循環バスの運行の充実が課題。
		高速バス新規路線誘致数	2路線	2路線	A		
4 健康増進事業の推進	各種がん検診受診率	5%UP	ほぼ横ばい	C	★生涯安心・人にやさしい健康のまちづくり ★生涯安心・人にやさしい福祉のまちづくり	乳がん検診などの受診率が伸びている検診もあるが、受診率が伸びていない検診の受診率を上げることが課題。	

※評価のAは「目標を達成」、Bは「目標に届かなかった」、Cは「指標を継続して取れなかったもの、または事業として取り組めていないもの」。

(2)第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

町では、「神崎町第4次総合計画」に掲げた神崎町の将来像「発酵の里・健康笑顔のまち こうざきーみんなで創る健康・安心・子育て応援のまちー」に基づき、これまで道の駅 発酵の里こうざきの開設や発酵食品産業の振興、子育て家庭の支援、健康づくりの支援など住民と行政が連携して活力あるまちづくりを推進してきました。

このような状況の中、国では、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、県では平成27年10月に「千葉県人口ビジョン」及び「千葉県地方創生総合戦略」を策定し、人口減少克服に向けた取り組みを加速したことから、本町においても、国、県の総合戦略を勘案して、本町の特性に即したまち・ひと・しごとの創生と好循環を促進するために、ここにまち・ひと・しごと創生法第10条に基づき「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。この計画は「神崎町第4次総合計画」のうち、産業振興や子育て支援など、町の人口減少対策にかかる施策についての具体的な展開方法を示す実施計画(アクションプラン)と位置づけられるものです。



(3)第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間

「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間は、2020年度から2024年度までの5年間とします。

(4)まち・ひと・しごと創生政策展開の5原則

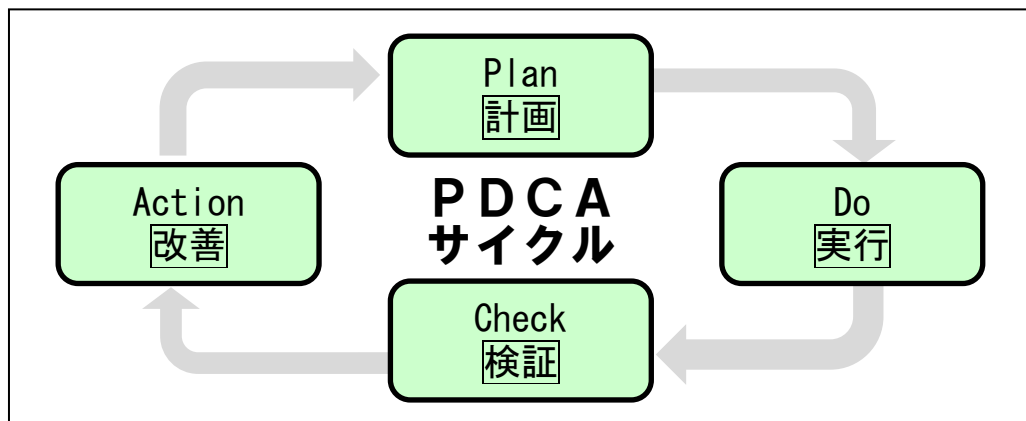
「神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、従来の縦割りや全国一律的な手法ではなく、次の5つの政策原則に基づき施策を展開します。

- ①自立性…各施策で構造的な問題に対処し、地方の自立につなげる
 - ②将来性…地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組む
 - ③地域性…各地域の実態に合った施策を展開する
 - ④直接性…限られた財源や時間の中で、最大限の効果を上げる施策を実施する
 - ⑤結果重視…各施策の効果を客観的な指標により検証し、必要な改善を行う
-

(5)目標設定とPDCAサイクルの確立

「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、自らが地域資源を活用した多様なアイデアで“まち”を創生するための基本目標を、数値目標で設定するとともに、各施策について重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクル¹により計画・実行・検証・改善を行います。

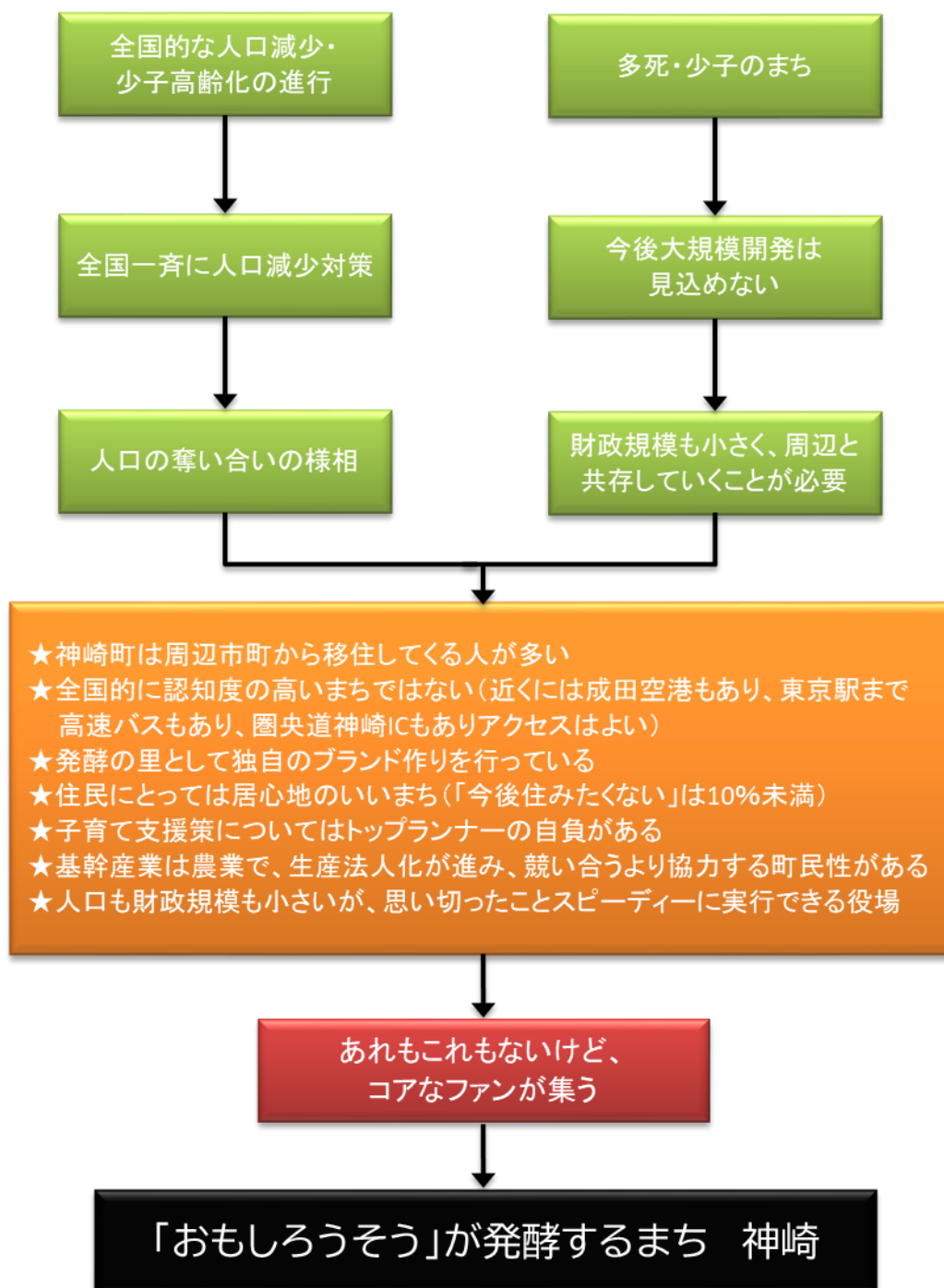
また、「神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、有識者等で組織する会議で効果を検証するとともに、必要に応じて「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂を行うこととします。



¹ Plan (計画を立てる) Do (実行する) Check (評価する) Action (改善する) を繰り返し行うことにより、一連の活動を管理していく仕組みのこと。

第5章 戦略コンセプト

「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、全国的な人口特性と、本町の人口特性やこれまでの人口減少対策への取組の評価と反省を踏まえて、次のようなコンセプトで戦略を推進していくこととします。



第6章 基本目標

「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、4つの基本目標と基本目標達成のために11の施策を掲げます。

基本目標	基本目標達成のための施策
<p>基本目標1 「おもしろそう」だから人が集う</p>	<p>①神崎ファンが集まるメッカをつくる（わくわく西の城の拠点化） ②発酵をキーワードにコアなファンを集めるプロジェクト</p> 
<p>基本目標2 パートナーと「おもしろそう」な人生が送れる</p>	<p>①小さいからこそできる痒い所に手が届く子育て支援 ②お年寄りや障害のある方のワクワクを支援 ③手が届くけど質は低くない住宅の供給 ④神崎だから受けられる教育の推進</p> 
<p>基本目標3 「おもしろそう」な仕事がある</p>	<p>①大変だけどおもしろい農業の振興 ②やってみたいを応援する起業支援 ③寄り道してみたくなるしかけのある商業振興</p> 
<p>基本目標4 「おもしろそう」なまちづくりがある</p>	<p>①神崎初心者の講習 ②まちづくりおもしろアイデアコンテスト</p> 

第7章 施策・事業の展開

基本目標1 「おもしろそう」だから人が集う

基本方向

神崎町には、圏央道神崎ICを降りてすぐのところに「道の駅発酵の里こうざき」があります。ここを目指してくる人も多く、寄り道する人も多く、言わずと知れた「発酵」をテーマにした国内唯一の道の駅です。神崎町には、道の駅以外にもライダーカフェや日本最古の西の城貝塚、神崎城跡、藍染め体験、酒蔵、火渡り等々、知る人ぞ知る「おもしろそう」なスポットが多数あります。万人受けしない分、詳しく話を聞いたり、体験してみたりして、仲間が集う場所があります。

仲間が気軽に集い、少し腰を落ち着けて話し合えるような場、町民かどうかを問わず神崎ファンなら利用できるメッカを作ります。

興味のある人は情報にアンテナを張っています。お金をかけて大々的にPRするよりも、ジワジワと、着実に、情報が欲しい人に届くようなPR戦略で、口コミ効果を大切にしながら独自の関係人口づくりに取り組みます。

数値目標

指標名	現在	目標
わくわく西の城の拠点化	—	拠点整備
道の駅レジ通過者数	77万人 (平成30年度)	90万人 (令和6年度)

施策1 神崎ファンが集まるメッカをつくる（わくわく西の城の拠点化）

施策推進方針

神崎町には様々なスポットがありますが、これまで力を入れて推進してきた「発酵の里」づくりは、数ある本町の特性の中でも、大きな広がりをつくる可能性のあるコンテンツです。酒蔵や道の駅を中心に発酵をテーマにした体験や商品がたくさんありますが、最近では発酵の奥深さを研究するその道の一線の研究者からも注目される町になってきました。

他にはない神崎町ならではの発酵のまちづくりを推進するとともに、神崎ファンが集まるメッカをつくり、神崎ブランドの発信の場所と、住民の憩いのスペースを創出します。

わくわく西の城の有効活用を図り、各種機能の集約と拠点整備化を推進します。わくわく西の城が神崎町の住民の憩いの場となるとともに、町外からの神崎ファンが集い、神崎町を体験する場となるように整備します。

事業概要

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
〇わくわく西の城拠点整備化事業 子どもや高齢者の集う場所、災害対応拠点、発酵体験、お試し移住、コワーキングスペース等の各種機能を兼ね備えた拠点整備	まちづくり課	拠点の整備	未着手	着工

施策2 発酵をキーワードにコアなファンを集めるプロジェクト

施策推進方針

神崎町には様々な訪れたいスポットがありますが、これまで力を入れて推進してきた「発酵の里」づくりは、数ある本町の特性の中でも、大きな広がりをつくる可能性のあるコンテンツです。神崎町の歴史に基づく神崎町ならではの取組であり、役場には「発酵の里推進室」も設置しました。

他にはない神崎町ならではの発酵のまちづくりを推進するとともに、発酵に関わる活動を支援し、コアなファンをつくり、集めていきます。

発酵をキーワードとし、道の駅を中心にまずは住民が楽しめる小さな観光を推進します。住民が楽しめる観光は、町外の人にも楽しめる観光につながることを信念に、街中散策や発酵体験などの観光振興を推進します。また、大きな媒体よりも小さな媒体で創意工夫を凝らしながら、興味のある人が情報をキャッチできるPR戦略を立て、発酵のまちづくりを推進します。

事業概要				
事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○道の駅関連周辺整備事業 ハイウェイオアシス整備	まちづくり課	道の駅レジ通過者数（年間）	77万人（H30）	90万人（R6）
○発酵マラソン推進事業	教育委員会	参加者数	2,000人（R2）	5,000人（R6）
○観光集客事業	まちづくり課	観光入込客調査（年間）	85万人（H30）	100万人（R6）
○発酵によるまちづくり推進事業 発酵体験、発酵カレンダー作成、発酵定食による地域活性化、「Hakkoの学校」プロジェクト、発酵とテクノロジーを掛け合わせたハッカソン「発酵ソン」プロジェクト	まちづくり課	発酵体験者数（年間）	500人（R元）	700人（R6）

【主な取組内容】

- 観光イベント事業（まちづくり課）
- 多言語音声翻訳等を活用した観光振興（まちづくり課）
- 発酵の里ブランディング事業（まちづくり課）

基本目標2 パートナーと「おもしろそう」な人生が送れる

基本方向

神崎町は、パートナーと楽しむことを日々の小さな幸せとしてかみしめられるような生活を送れるまちを目指します。

子どもがいればなお楽しめるような環境づくりを推進し、子育てを楽しむ大人を見て、子どもたちも神崎町で子育てしたいと思えるようにしていきます。

小さな町だからこそ行き届いた子育て支援サービスが充実し、安全面や住居面、教育面など多岐にわたり町全体で子どもを見守る環境づくりや意識づくりをしていきます。そのためには、子育て世代だけでなく、高齢者や障がい者、外国人など、分け隔てなく住民皆が健康でいられる環境づくりも重要です。

いつまでもパートナーとおもしろそうな人生が送れる環境をつくります。

数値目標

指標名	現在	目標
中学生までの子どもと移住してくる世帯数（年間）	14 世帯 （平成 30 年度）	20 世帯 （令和 6 年度）
健康寿命	84.4 歳 （平成 27 年度）	85.0 歳 （令和 6 年度）

施策1 ①小さいからこそできる痒い所に手が届く子育て支援

施策推進方針

神崎町は、知る人ぞ知る子育て支援の充実した町です。幼児から給食費は無料で、全世代の住民の健康づくりにも力を入れてきました。婚活・妊娠・出産・子育てと、人生で直面する大きな出来事に対して、小さな町だからこそ行き届いたサービスが提供できます。

結婚したい人の希望を叶えるための支援は今まで同様行いますが、結婚という形にとらわれることなく、パートナーと良い人生が送れるように、まずは健康と安全面を重視し、きめ細かい行政サービスの提供と、地域住民との連携を強化していきます。本町が子育て支援にこれまでも力を入れてきた自負心を大切に、住民が誇りを持って「子育てしやすい町」と言えるまちづくりを推進します。

事業概要

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○子育て支援センター設置事業	保健福祉課	設置	—	設置
○保育所入所児保育料無料化事業	保健福祉課	利用者数（年間）	137人 （R元）	140人 （R6）
○学校給食費助成事業	教育委員会	児童・生徒数 （年間）	345人 （R元）	350人 （R6）
○子育て支援費支給事業	保健福祉課	対象者（年間）	71人 （H30）	80人 （R6）

【主な取組内容】

- 子ども医療費助成事業（保健福祉課） ○特定不妊治療助成事業（保健福祉課）
- 保育所一時預かり事業（保健福祉課） ○保育所子育て支援拠点事業（保健福祉課）
- 学童保育事業（保健福祉課） ○ひとり親家庭医療費助成事業（保健福祉課）
- 子育てママ・若い世代の健康診査事業（保健福祉課） ○離乳食教室事業（保健福祉課）
- 緊急情報のメール配信事業（保健福祉課） ○児童遊具点検・改修事業（保健福祉課）
- 健康増進事業（保健福祉課） ○予防接種事業（保健福祉課）
- 母子保健事業（保健福祉課） ○妊婦健康診査支援事業（保健福祉課）
- 健康相談ダイヤル 24 事業（保健福祉課） ○人間ドック助成事業（保健福祉課）
- 特定健康診査・特定保健指導事業（保健福祉課） ○保健推進員活動事業（保健福祉課）
- ファミリーサポート事業（保健福祉課）

施策2 お年寄りや障害のある方のワクワクを支援

施策推進方針

お年寄りがいきいきと暮らし、障がいのある方がワクワクしながら生活が送れるような支援を充実します。また、ご自身の健康管理についても支援し、明るく前向きな生活が送れる環境づくりを推進します。

事業概要

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○循環バス運行事業	まちづくり課	利用者数（年間）	9,574人 (H30)	14,000人 (R6)
○福祉タクシー事業	保健福祉課	利用者数（年間）	147人 (H30)	180人 (R6)
○高齢者教室事業	保健福祉課	参加者数（年間）	1,220人 (H30)	1,400人 (R6)
○高齢者買い物支援事業	まちづくり課	利用者数（登録）	10人 (R元)	40人 (R6)

【主な取組内容】

- 老人クラブ活動推進事業（保健福祉課） ○緊急通報体制整備事業（保健福祉課）
- 紙おむつ等助成事業（保健福祉課） ○介護 予防・日常生活支援総合事業（保健福祉課）
- 障害者自立支援給付事業（保健福祉課） ○障害地域包括生活支援事業（保健福祉課）
- 重度心身障害者医療費助成事業（保健福祉課） ○障害者施設サービス利用支援事業（保健福祉課）
- 高齢者見守り支援事業（保健福祉課）

施策3 手が届くけど質は低い住宅の供給

施策推進方針

空き家調査については、継続的な情報収集と情報発信が重要です。そのためには、地域における情報収集体制や情報発信の方法等について慎重に検討し、神崎町に住みたいと思ってもらえる

人につないでいくための取組を推進します。また、住んでいなくても家を手放さない住民に対して、その理由等についても把握し、住宅の良い循環が行われるための仕組みづくりも検討します。

事業概要				
事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○空き家バンク事業	まちづくり課	契約成立 件数（累計）	—	10件 (R6)
○移住定住奨励金交付事業	まちづくり課	交付対象世帯 転入者数（年間）	17人 (H30)	20人 (R6)
○住宅リフォーム補助事業	まちづくり課	利用件数（年間）	0件 (H30)	10件 (R6)

【主な取組内容】

- 木造住宅耐震診断・補強工事助成事業（まちづくり課）
- 住宅用太陽光発電システム設置補助事業（町民課）
- 新婚新生活支援事業（まちづくり課）

施策4 神崎だから受けられる教育の推進

施策推進方針

神崎町は「教育のまち」として多くの人々が認める地域を目指します。良い教育とは何かを考え、神崎ならではの教育スタイルを築いていきます。また、子どもだけでなく、大人も教育が受けられるような場所や機会をつくり、外部の人とも交えながらアイデアを出し合い、よりよい教育のまちづくりを推進します。

事業概要				
事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○食育・発酵体験事業 大豆から育てるみそ仕込み体験、田植え・ 稲刈り体験、学校給食における地産地消	教育委員会	学校給食におけ る地元食材品目	5品目 (R元)	10品目 (R6)
○通学合宿事業	教育委員会	参加者数	20人 (R元)	25人 (R6)
○図書室運営事業	教育委員会	貸出冊数（年間）	17,843冊 (H30)	20,000冊 (R6)

【主な取組内容】

- 小・中学校パソコン整備事業（教育委員会）
- 教育指導員配置事業（教育委員会）
- おはなしのとびら事業（教育委員会）
- 日本語教育の支援（教育委員会）

基本目標3 「おもしろそう」な仕事がある

基本方向

神崎町には工業団地もあり、農業生産法人もあり、高速自動車道の利便性が高い流通の適地でもあります。しかし、交通の利便性は一長一短に変化させることができるものではありません。交通弱者に配慮した交通手段の仕組みづくりなどに取り組むとともに、農業や商業・サービス業など、まちの活力を生み出す仕組みづくりを推進します。

また、限られた土地や資源の中で、町内に立地している企業等の留置のための方策を検討するとともに、起業支援を推進し、自立的な地域経済の発展に努めます。

数値目標

指標名	現在	目標
農業産出額	10.2 億 (平成 29 年度)	11 億 (令和 6 年)
起業数 (累計)	—	3 件 (令和 6 年度)

施策 1 大変だけどおもしろい農業の振興

施策推進方針

農業は全国的に後継者不足が深刻になっていますが、本町においては生産法人化が進むなど、農業における付加価値化や効率化などに向けた土台ができつつあります。スマート農業に取り組む生産法人もあり、次なるステージにレベルアップしていく農業を強力に支援していきます。

事業概要

事業名/事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○スマート農業の促進	まちづくり課	取り組み面積	80ha (R元)	100ha (R6)
○農地集積・集約化事業	まちづくり課	集積率	57.9% (R元)	60% (R6)
○新規就農総合支援事業	まちづくり課	新規就農者数 (年間)	0人 (R元)	1人 (R6)

【主な取組内容】

- 親元就農支援事業 (まちづくり課) ○地元農産物6次産業化事業 (まちづくり課)
- 「農の癒し」推進プロジェクト (まちづくり課)

施策2 やってみたいを応援する起業支援

施策推進方針

交通の利便性が高まるとともに、大型商業施設が近隣等にも点在し、町内での消費活動が減少しつつあります。こうした中、業態を変えた新たなサービス提供を行う企業や、本町の魅力を活用した創業など、空き店舗の活用等も含め、やる気のある企業や起業家を支援していきます。

事業概要

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○起業・創業支援事業	まちづくり課	起業支援数（累計）	—	3件 (R6)
○サテライトオフィス立地企業の支援	まちづくり課	サテライトオフィス数 (累計)	—	1企業 (R6)

【主な取組内容】

○企業誘致促進事業（まちづくり課） ○セーフティネット保証認定事業（まちづくり課）

施策3 寄り道してみたくなるしかけのある商業振興

施策推進方針

本町はサイクリングやマラソン、道の駅などをきっかけに、多くの人を訪れるまちです。目的を持った訪問者が、ついつい寄り道したくなるようなしかけをつくり、消費を促していく取り組みを推進します。そのためには、キャッシュレス決済による利便性の向上や、寄り道コースの提案など、商店等との協力関係を一層推進していく必要があります。

事業概要

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○発酵定食による地域活性化【再掲】	まちづくり課	スタンプラリー景品 獲得者数（年間）	—	20人 (R6)
○キャッシュレス決済の環境づくり	まちづくり課	キャッシュレス決済 導入商店数（累計）	—	5店舗 (R6)

【主な取組内容】

○地域おこし協力隊員の拠点整備（まちづくり課） ○寄り道推進補助事業（まちづくり課）

基本目標4 「おもしろそう」なまちづくりがある

基本方向

神崎町は人口6千人ほどの小さな町です。

住民と役場の関係も近く、顔の見える行政運営を行っています。

日々変わるニーズや困りごと、もっと改善すべきことなどを役場が今まで以上に吸い上げて、関係者を巻き込みながら迅速に対応していくことが、住民にとって居心地の良い町になると信じています。まちづくりは役場だけで担うのではなく、住民や関係団体、企業、教育、ボランティア等々多くの人が関わっています。だからこそ、仕方なくやるのではなく、皆とワイワイ言いながら楽しんでまちづくりを行っていきたいと思います。一人が動けば皆が動き、良いアイデアを称賛しあう、「おもしろそう」が集まるまちづくりをこれからも推進していきます。

数値目標

指標名	現在	目標
ふるさと納税額	4,500 千円 (令和元年度)	6,000 千円 (令和6年度)

施策1 神崎初心者の講習

施策推進方針

神崎町は奥深い町です。

小さいけれども色々なところから人が移り住んできます。

昔ながらの祭りや集まりもあり、料理や発酵食品など、神崎町ならではの特色もたくさんあります。こうした特徴を移り住んできた人に紹介し、神崎町の奥深さを知ってもらいきっかけづくりをしていきます。神崎初心者を受け入れて、おもしろそうなまちづくりを担う人材育成を推進します。

事業概要

事業名/事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○ふるさと納税の推進	総務課	納税額(年間)	4,500千円 (R元)	6,000千円 (R6)
○情報発信事業 HPやSNSによる情報発信	まちづくり課	ツイッター フォロワー数	280人 (R元)	1,000人 (R6)
○生涯学習推進事業	教育委員会	講座数(年間)	3講座 (R元)	6講座 (R6)

【主な取組内容】

- 企業版ふるさと納税の推進(総務課) ○町ガイドマップ作成事業(まちづくり課)
- 発酵カレンダー作成事業(まちづくり課) ○各種スポーツ団体の育成支援事業(教育委員会)
- 文化祭の開催事業(教育委員会) ○文化ホール事業(教育委員会)
- スポーツ・レクリエーション事業(教育委員会)

施策2 まちづくりおもしろアイデアコンテスト

施策推進方針

神崎町はまちづくりのコンテストを行っているわけではありません。

おもしろまちづくりのアイデアを協力して取り組む住民をたくさんつっていきたいのです。そのためには、まちづくりを楽しみ、アイデアを出し合い、賛同する者同士が協力しあいながらまちづくりを住民と協働で担っていきます。

道路の整備一つとっても、ハザードマップ作り一つとっても、役場が決まりきった方法で実施するよりも、住民と協力しながら創意工夫を交え、自分たちのふるさと子どもや孫に良い形で引き継いでいくための意見交換を積極的に推進していきます。

【主な取組内容】

- SDGs への取組強化 ○5G 整備の推進
- クラウドファンディングの活用 ○AI・IoT・ビッグデータ等を活用した健康づくりの推進
- 地域 ICT クラブの推進 ○「地域情報化アドバイザー」の活用
- 小さな拠点づくりの推進（地域商社の設立支援）

